

【指導事例1】「国語総合」「話すこと・聞くこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導（スピーチ）

1 「国語総合」「話すこと・聞くこと」の指導事項と言語活動例

新学習指導要領（平成21年3月公示）第2章，第1節国語，第2款各科目，第1国語総合の「2内容，A 話すこと・聞くこと」に「(1)次の事項について指導する」として，次の4項目がある（以下「指導事項」）。

- ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち，根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて，効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために，相手の立場や考えを尊重し，表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。
- エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い，自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。

また，「(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする」として，次の3例が取り上げられている（以下「言語活動例」）。

- ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり，資料に基づいて説明したりすること。
- イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり，内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。
- ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら，課題に応じた話合いや討論などを行うこと。

「話すこと・聞くこと」の指導事項においては，「話題設定（指導事項ア）」・「話すこと・聞くこと（指導事項イ）」・「話し合うこと（指導事項ウ）」・「交流・評価（指導事項エ）」といった学習の過程に沿った構成がなされている。これは，小学校及び中学校において学習の過程に沿った内容の構成がなされていることを受けるとともに，「各教科・科目等の指導に当たっては，生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。（「総則」第5款の(5)）とも関連している。

こうした改訂のねらいを踏まえ，指導事項と具体的な単元の指導とを対応させ，指導改善を図るために，【資料1】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」の表中『「話す・聞く能力」に関する評価規準の設定例』のように細分化した。例えば，指導事項アは，a①からa④までの4事項に細分化しており，指導事項アから指導事項エまでの4事項はa①からd②までの合計12事項の評価規準例に分割した。実際の指導においては，これらのうち複数を同時に指導することも多いが，指導の重点を明確化し，指導の重点を明確化し，「国語総合」の指導の全体を通してバランスよく指導をするために細かく設定した。

本指導事例では、単元の評価規準とすることのできる例として、指導事項を基に設定した12事項のそれぞれに対応させて、言語活動に応じた具体的な評価規準の設定例を当てる。また、設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものの中から設定し、教材は現行の「国語総合」の教科書から選定する。

2 状況に応じた話題を選んでスピーチする言語活動を通じた指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「話すこと・聞くこと」の領域における指導事項から設定した12事項に「言語活動例ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること」を組み合わせたものが、【資料1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。なお、言語活動例には「スピーチ」・「説明」が例示されているが、ここでは前者の「状況に応じた話題を選んでスピーチする」を設定した。

指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、「スピーチ」という言語活動においても、「話題設定（指導事項ア）・話すこと・聞くこと（指導事項イ）」・「話し合うこと（指導事項ウ）」・「交流・評価（指導事項エ）」のそれぞれに対応した指導を実施することが可能であり、【資料1】における評価規準の設定例では、12項目の全てについて記載した。

指導に際しては、「話すこと・聞くことを主とする指導には15～25単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。（4内容の取扱い(2)ア）」として示されている授業時間の目安に従って立案する、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げることになる。

例えば、指導事項イを基に設けた「b① 目的や場に応じて、伝達すべき内容がよく伝わるように、資料や機器を活用して話している」の事項は、スピーチの目的や場に応じて内容にふさわしい資料や機器の活用について指導することも想定できる。しかし、年間計画の中にスピーチとは別に、言語活動例の後半にある「資料に基づいて説明する」等の言語活動が設定されているならば、この言語活動に関する重点項目とはしないことも考えられる。

また、指導事項ウを基に設けた「c① 相手の考えの基となる事実、考えを形成する過程等や、自分の意見との共通点や相違点について整理したり質問したりして相手の考えを的確に理解して話し合っている」の事項は、グループ内でのプレスピーチを基にして話し合う場面において指導することも想定できるが、生徒の実態や指導時間の配分によってはこの単元における重点項目としないこともある。ただしその場合は、年間計画で「スピーチ」という言語活動とは別に、「c① ……相手の考えを的確に理解して話し合っている」という事項について指導するために、例えば「言語活動例ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと」に類する言語活動が設定されていることが必要である。

このように、「スピーチ」という言語活動を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元での重点項目とすることの必要性を検討する必要がある。もちろん、ここで指導と評価の重点として扱わない事項であっても、生徒の学習活動を制限するものではない。例えば、「資料を提示してスピーチをする」、「メモを取りながら聞き、発表者に質問をする」などといった学習活動は望ましいものであり、ここでは資料の作成やメモの取り方について指導と評価を位置付けていないということである。

先に、指導の全体を通して指導事項の一部が抜け落ちることが無いようにするために、指導事項を

基に12事項の評価規準例に細分化したと述べたが、このように細分化することによって指導の重点を定めやすくなることも利点である。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。

まず、高等学校1年1学期の実施を想定した単元とすること。

次に、対応する指導事項は、「指導事項ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること」、「指導事項エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」を設定すること。

また、上記の指導事項を、言語活動例アにある「状況に応じた話題を選んでスピーチする言語活動」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の点を考えて教材を選定するが、まず、「話題について様々な角度から検討して自分の考え」をもつためには、述べるべき内容について複数の立場から検討しやすい話題を設定する必要がある。また、学年の早い時期でもあり、生徒にとって親しみやすく、しかも高等学校で国語を学習する初期にふさわしい話題が望ましい。

また、「話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」という交流・評価の意義を体得させるために、グループや学習集団全体の場で互いの考えを聞き合うことの意義や楽しさを感じさせ、学習意欲を喚起できる教材であることが望ましい。

そこで、「国語総合〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(ア)国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること」に関連して、生徒の身近な言語生活の経験を通して、言語の役割について考えることのできる教材として、教科書掲載の次の教材を選定した。

教材 『高等学校 改訂版 標準国語総合』第一学習社 随想 (一)「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子

この教材は、携帯電話等の普及などによって「書く」スタイルが変容しても、人が書いた言葉には話し言葉にはない力が宿っているということを述べた随想である。ファックス、手紙、カード、携帯メール等の豊富な事例があげられていること、自分自身に向けて書いた言葉にも同様の力があると述べていることなどから、自分自身の経験を振り返り、「書くこと」について考える契機とするにふさわしい教材であるといえる。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 「書くこと」についてスピーチする。
- ・ 教材 「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子
(「高等学校 改訂版 標準国語総合」第一学習社)
- ・ 単元の目標 (一)「書くこと」について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。

(二)「書くこと」についてのスピーチをしたり、聞いたりして、「書くこと」についての考え方などを豊かにする。

- ・ 単元の評価規準 (一) 教材文を読み、「書く」スタイルの変容、「書くこと」によるメッセージの伝わり方について考えている。(a①)
 - (二) 電話と携帯メール、手紙とメールなどを比較したり、自分自身の経験をもとにして「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について考えたりして、「書くこと」について様々な角度から検討している。(a②)
 - (三)「書くこと」について、自分の意見とその根拠とを明確にしている。(a③)
 - (四) 自らの意見の根拠となる事柄を箇条に分けて示したり、考えをまとめるに至った過程をたどりながら説明したりするなどの工夫をして意見を述べている。(a④)
 - (五) プレスピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。(d①)

・ 配当時間 全4時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1	・教材文「書きたい気持ちを大切にしたい」を読み、「書く」スタイルの変容、「書くこと」と「話すこと」とによるメッセージの伝わり方の相違について考える。	a① 教材文を読み、「書く」スタイルの変容、「書くこと」によるメッセージの伝わり方について考えている。
2	・「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について教材の内容と、自分の経験等を基に考えをまとめ、構成を工夫してスピーチメモを作成する。	a② 電話と携帯メール、手紙とメールなどを比較したり、自分自身の経験をもとにして「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について考えたりして、「書くこと」について様々な角度から検討している。 a③ 「書くこと」について、自分の意見とその根拠とを明確にしている。 a④ 自らの意見の根拠となる事柄を箇条に分けて示したり、考えをまとめるに至った過程をたどりながら説明したりするなどの工夫をして意見を述べている。
3	・グループ内でプレスピーチを実施し、自己評価・相互評価を基にして助言しあい、代表を選ぶ。	d① プレスピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。
4	・グループの代表によるスピーチを実施して相互評価し、「書くこと」について考えたことをワークシートに書く。	d① プレスピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成〇年〇月〇日

二 クラス 第〇学年〇組

(「三 単元」,「四 教材」,「五 単元の目標」,「六 単元の評価規準」,「七 指導計画」,「八 本時の目標」,「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照。)

十 本時の指導 (全4時間分を掲載)

・4時間中の1時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (10分)	・単元の目標理解	①・単元の目標と言語活動について確認する。 ②・「文字によるメッセージ」の例をグループ(7人程度)内であげる。	①・評価の観点を基にして,単元の目標を示す。 ・「書くこと」について3分間スピーチするという言語活動を示す。 ②・グループ内の事例を記録して提出させ,次時の資料として活用する。 【資料3】
展開 (30分)	・本文の音読 ・本文前半の読み取り ・本文後半の読み取り	③・指名読みの音読により,本文を通読する。 ・「書くこと」についての筆者の考えが述べられている部分に傍線を引く。 ④・グループ内で,③の傍線部を確認する。 ・文字で書かれたメッセージに関するエピソードを読み,筆者の「書くこと」についての考え方を各自がワークシートにまとめる。 ⑤・「書く」スタイルと書きたい気持ちの在り方の変化について筆者の考えを各自がワークシートにまとめる。	③・通読と語句の意味調べを予習として課す。 ・理解しにくい部分について④⑤で質問できるようにさせる。 ④・「筆者自身」,「欧米の家庭」,「五歳の少年」のそれぞれのエピソードから,「書く」行為によって「文字に置き換えられた心」が永遠の力をもつことを読み取らせる。 【資料2】 ・読み取りが難しい場合は,机間指導によって③の傍線部を確認させる。 ⑤・「手紙からメールへと形式は変わっても,『話す』ことよりも『書く』ことを選ぶ人が圧倒的に増えている」とことと「書きたい衝動」との関係を読み取らせる。 【資料2】
終結 (10分)	・筆者の叙述に対する自分の意見を簡潔に記す。	⑥・筆者の現状分析や主張についての自分自身の考えを振り返る。	⑥・「心を文字に置き換えたとき,それは永遠の輝きをそこにとどめる」「(手紙を大切にすることがどうかで,)人生は大きく変わってくる」「『話す』ことよりも『書く』ことを選ぶ人が圧倒的に増えている」といった筆者の叙述に共感するかどうかを「○」「?」といった記号と簡潔なコメントによってワークシートに記載する。 【資料2】 ★教材文を読み,「書く」スタイルの変容や,「書くこと」と「話すこと」とによるメッセージの伝わり方の相違について考えているかを,ワークシートへの記入に基づいて評価する。 (a ①)

	・次時の予告	⑦・次時（2・3時間目）の活動を理解する。	⑦・次時（2時間目）には、「書くこと」についてスピーチメモを作成し、3時間目にグループ内でプレスピーチを確認することを確認する。
--	--------	-----------------------	--

4時間中の2時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (15分)	・本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について確認する。 ②・「書くこと」についての自分の考えとグループのメンバーの考えを確認し合い、自分の考えをまとめる。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 ・「書くこと」についてプレスピーチするためのメモを作成することを確認する。 ②・前時の「文字によるメッセージ」を伝えたり、受け取ったりした経験のまとめと、前時のワークシートへの記載を基にして感想を交換することを通して、「書くこと」についての考えをまとめさせる。 ・司会を決めて進行させ、感想や考えの共通点や相違点を明らかにさせる。
展開 (30分)	・スピーチメモの作成	③・自分の意見とその根拠を整理する。 ④・スピーチの構成などを工夫する。	③・自分の意見だけでなく、異なる立場の意見とその根拠についても整理させる。 【資料4】 ・自分の意見が整理できない場合は、グループ内で1時間目⑥のワークシートに異なる記号を記載した生徒の考えと自分自身の考えとを比較させ、教材文を読んだ感想を述べさせることで、考えを整理させる。 ④・スピーチの構成で工夫する点をワークシートに記載させる。 「自分の意見を述べる位置」、「教材文の内容の引用の仕方」、「エピソードの紹介」、「考えをまとめた過程」等の例を示し、構成や内容を工夫させる。 【資料4】 ★グループにおける話合いの様子を観察することと、ワークシートの記載に基づいて評価する。(a ②③④)
終結 (5分)	・本時の確認と次時の予告	⑤・次時（3時間目）の活動を理解する。	⑤・次時（3時間目）には、スピーチメモに基づいてグループ内でプレスピーチをし、クラスで共有したいスピーチを代表として選ぶことを確認する。

4時間中の3時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (3分)	・本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 ・グループは7人程度とし、スピーチ（3分）と工夫のポイント申告、相互評価の記入と助言（3分）とし、計時と進行の係を決めてスピーチをさせる。 ・グループの代表スピーチは、「書くこと」

			について、クラスで共有したい考え方が分かりやすく述べられているものとさせる。
展開 (45分)	・グループ内の プレススピーチと 相互評価	②・プレススピーチをし、 相互評価をする。 ③・クラススピーチをす る代表を選ぶ。	②・前時④で構成などについて工夫した点を事前にグループ内に知らせたうえでスピーチをさせる。 ・「書くこと」についての考えの明確さと、その根拠を伝えるための工夫が効果を上げているかについて相互評価させる。【資料5】 ③・他のグループにも気付いてほしい良さを1点あげ、代表者のスピーチメモに記載させる。 ★グループにおけるプレススピーチの様子を観察することと、ワークシートの記載に基づいて評価する。(d①)
終結 (2分)	・本時の確認と 次時の予告	⑤・次時（4時間目）の 活動を理解する。	⑤・次時（4時間目）には、クラススピーチをし、考え方や構成の工夫の良さを評価し合うことを確認する。 ・グループの代表者のスピーチメモを提出させ、クラスでスピーチの発表順決定の資料とする。複写等の控えを取って返却する。

4時間中の4時間目

学習 段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	・本時の学習目 標理解	①・本時の目標と言語活 動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 ・発表順は本時の開始前までには知らせておき、進行と計時には指導者があたる。 ・相互評価表の項目とは別に、代表スピーチのそれぞれについて、特に良かった点を挙げさせ、記入の後、前時の③においてグループ内で意図した項目と照らし合わせるができるようにする。
展開 (35分)	・クラススピー チ	②・クラススピーチと相 互評価をする。 ③・単元を通して聞いて 「書くこと」について 考えたことを、代表ス ピーチと関連づけて記 載する。	②・発表順を掲示し、発表者は会場の前に立ってスピーチする。 ・1人のスピーチ（3分）ごとに2分程度の評価表記載時間を設ける。 ③・代表スピーチのうち、自分自身の「書くこと」についての考えを豊かにしてくれたものを1点選び、ワークシートに感想を記載する。【資料6】 ・自分自身の考えと比較しつつ、選んだスピーチにおける「書くこと」についての考え方について感想を述べる。【資料6】 ★ワークシートの記載に基づいて評価する。(d①)
終結 (10分)	・講評とまとめ	④・スピーチについての 講評	④・指導者が、前時③で各グループが意図した代表スピーチの良さについて紹介し、代表者の意見の特長について講評する。 ・スピーチメモ、プレススピーチ評価表、クラススピーチ評価表を提出させる。

【資料1】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「話す・聞く能力」に関する 評価規準の設定例（12項目）	重点化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	a ① 話題について自分なりの課題意識を持ち、問題や論点を見つけている。	○	・教材文を読み、「書く」スタイルの変容、「書くこと」によるメッセージの伝わり方について考えている。
	a ② 話題について様々な角度から検討している。	○	・電話と携帯メール、手紙とメールなどを比較したり、自分自身の経験をもとにして「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について考えたりして、「書くこと」について、様々な角度から検討している。
	a ③ 意見を述べるときに、自分の意見の根拠を明確にしている。	○	・「書くこと」について、自分の意見とその根拠とを明確にしている。
	a ④ 自分の考えを、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	○	・自らの意見の根拠となる事柄を箇条に分けて示したり、考えをまとめるに至った過程をたどりながら説明したりするなどの工夫をして意見を述べている。
イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	b ① 目的や場に応じて、伝達すべき内容がよく伝わるように、資料や機器を活用して話している。		・クラスで発表する際に提示する資料を用意し、スピーチのどこで提示するかを工夫している。
	b ② 目的や場にふさわしい表現で話している。		・クラスでスピーチするのにふさわしい接遇表現を用い、聞き手に対して丁寧語を用いたり、必要に応じて敬語表現を用いて話したりしている。
	b ③ 目的や場に応じて的確に聞き取り、必要に応じてメモや要約をしたり、質問や感想などを述べたりすることができる。		・グループ内のプレスピーチやクラスでのスピーチを聞いて、主張の要点をメモしたり、質問や感想をワークシートに記載したりすることができる。
ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。	c ① 相手の考えの基となる事実、考えを形成する過程等や、自分の意見との共通点や相違点について整理したり質問したりして相手の考えを的確に理解して話し合っている。		・プレスピーチを聞いて、「書くこと」についての考えやその考えを形成する過程などについて、自分の意見との共通点や相違点を整理して意見を述べたり、質問したりして考えを深めている。
	c ② 話の構成や展開、言葉遣いといった論理的な側面と、表情や声の調子等の情意的な側面とに配慮して話し合っている。		・プレスピーチを聞いて助言しあう際に、グループ内での話合いに進んで参加し、相手の立場を尊重して自分の考えを述べている。
	c ③ 話合いの目的を理解して、司会者や提案者などの役割を果たしたり、話合いの展開を考えたりしている。		・プレスピーチをもとにしてグループ代表を選び、「書くこと」についての考えを深めるためのスピーチとして改善する点について司会者を決めて話し合う。
エ 話したり聞いたり話したりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立っていると、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d ① 話したり聞いたり話したりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方を豊かにすること。	○	・プレスピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って、評価したりすることによって、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。
	d ② 話したり聞いたり話したりしたことについて自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立っている。		・プレスピーチやスピーチの表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立っている。

【資料2】「書くこと」について考えるためのワークシート例（1時間目）

「書きたい気持ちを大切にしたい」 年 組 番 氏名

1 「書きたい気持ちを大切にしたい」では次にあげたそれぞれのエピソードを通して、筆者のどのような考えが述べられているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

書かれたものの例	エピソード	筆者の考えたこと	共感
これまでに受け取った手紙	・年頭に手紙を整理する時に、保管してある昔の手紙を読み返すと、どれだけたった後でも同じように胸が熱くなる。	(ページ 行目)	
昔もらったカードや手紙	・欧米の家庭では、家族の思い出話が始めると、	(ページ 行目)	
「おばあちゃんから来た手紙」「ママが書いた僕の顔」「男の子から筆者への手紙」	・五歳の男の子が普段から、 ・筆者が五歳の男の子からもらった手紙には、彼の知っている人々の顔が描かれており、	(ページ 行目)	

2 筆者は、「書く」ことにどのような変化がみられると述べているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

これまでのスタイル	新しいスタイル	共感
カップルが長電話をする。	携帯電話で何時間も送受信を繰り返す。	
隣の席の社員と直接対話する。		
年賀状はお年玉付き年賀はがきで出す。		
クリスマスカードを郵送する。		

3 筆者は、「書くこと」の果たす役割がどのように変化していると述べているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

私たちが、「書くこと」によって	共感
という傾向は、	

4 筆者は「書くことの偉大さ」をいろいろな表現で述べている。そのうち最も印象的な表現を用いて、「書くことの偉大さ」を簡潔にまとめなさい。

	共感

5 筆者の考えに共感する場合は「○」、共感できない場合は「？」を、2から4までの「共感」欄に記載しなさい。

また、「書く」スタイルの変化、「書くこと」と「話すこと」との違いについて、この文章を読んで感じたことや考えたことを書きなさい。

(「書く」スタイルの変化について)

「話すこと（しゃべり言葉）」は、
それと比較して「書くこと（書いた言葉）」は、

【資料3】「言葉によるメッセージ」(グループごとの記録用紙)の例 (1時間目)

《文字によるメッセージ》□班 <特定の相手に向けて>	特 定 の 人 か ら	<不特定の相手に向けて>
<特定の相手に向けて>	不 特 定 の 人 か ら	<不特定の相手に向けて>

【資料4】スピーチメモの例 (2時間目)

スピーチメモ 「書くこと」についてスピーチする 年 組 番 氏名 スピーチの構成メモ 項目が足りないときは付け足すこと。	※ プレスピーチでアピールしたい項目に○をつけておく。 (内容に関するメモ)	1 「書くこと」についての考え方 2 想定できる別の考え方 3 根拠として例示するエピソードなど 4 その他 教材から引用する内容 考え方が変化したプロセス その他												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%; text-align: center;">1</td><td style="width: 95%;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2</td><td></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3</td><td></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4</td><td></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5</td><td></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6</td><td></td></tr> </table>	1		2		3		4		5		6		(構成に関するメモ)	1 自分の考え方(結論)の位置 始め 終わり 繰り返す 2 根拠を述べる位置 結論の後で根拠をあげる 根拠をあげてから結論を述べる 3 その他 教材からの引用の役割(補強・否定) その他
1														
2														
3														
4														
5														
6														
クラススピーチで評価してほしい点 <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div>														

【資料5】相互評価表例（3時間目）

プレススピーチ相互評価表

「書くこと」についてスピーチする 年 組 番 氏名

※ 次の項目について「○△×」の3段階で相互評価する。

- 1 意見が明確に伝わる。 2 考えの根拠が分かりやすい。 3 聞き取りやすい。
4 工夫は効果的である。

班					
発表者	1 意見	2 根拠	3 話し方	4 工夫	5 コメント

【資料6】相互評価表例（4時間目）

クラススピーチ評価表

「書くこと」についてスピーチする 年 組 番 氏名

〔1〕スピーチを聞いて次の項目について「◎○△」の3段階で評価する。

- 1 意見が明確に伝わる。 2 考えの根拠が分かりやすい。 3 聞き取りやすい。

	発表者	1 意見	2 根拠	3 話し方	4 特によい点
1					
2					
3					
4					
5					
6					

〔2〕クラススピーチから1点を選び、その発表者に向けて感想を述べなさい。ただし、自分自身の「書くこと」についての考え方も発表者に伝わるように双方の考え方を比較して書きなさい。